

教科名:理科

【 3学年 生物 】

観点	内容のまとまり	評価規準	評価基準			評価方法
			A	B	C	
知識・技能	(1)生物の進化 (2)生命現象と物質 (3)遺伝情報の発現と発生 (4)生物の環境応答 (5)生態と環境	①生物の学習内容について理解している。 ②生物基礎で学習した内容について理解している。 ③器具を用いて正しく観察・実験を行える。	①生物の学習内容について例を挙げて説明できる。 ②生物基礎の学習内容を十分に理解し、発展的な知識を得ている。 ③自分で適切な実験・観察器具を選択し、正しく操作・使用することができる。	①生物の学習内容について理解できている。 ②生物基礎の学習内容はおおよそ理解している。 ③指示された実験・観察器具を操作・使用することができる。	①生物の学習内容について理解できていない。 ②生物基礎までの学習内容の理解が不十分である。 ③実験・観察器具を的確に操作・使用することができない。	定期考査 小テスト 課題 提出物
思考・判断・表現	(1)生物の進化 (2)生命現象と物質 (3)遺伝情報の発現と発生 (4)生物の環境応答 (5)生態と環境	①実験・観察で得られた結果から、規則性・法則性等を見いだしている。 ②科学的な根拠を基に考察している。	①得られたデータから、規則性・法則性等を正しく導くことができる。 ②考察の内容に対し、説得力のある科学的な根拠が示されている。	①教科書や参考となる比較データから規則性・法則性等に気付いている。 ②考察の内容に、特に根拠が見られない。	①データが不正確であり、規則性・法則性等が導かれていない。 ②考察の内容が十分に示されていない。	定期考査 小テスト 課題 提出物
主体的に学習に取り組む態度	(1)生物の進化 (2)生命現象と物質 (3)遺伝情報の発現と発生 (4)生物の環境応答 (5)生態と環境	①主体的に授業に参加し、実験・観察を行うことができる。 ②理科の見方・考え方を基に、考察しようとしている。 ③他者と対話をしながら、評価を互に行い、自分の考察を検討し改善しようとしている。	①教員の発問に対して学習の内容を深める重要な発言を行っており、グループの中心として観察・実験を行っている。 ②身近な生命現象についても科学的な根拠をもとに理解しようとしている。 ③協調性をもって、科学的根拠をもとに対話することができる。	①教員が指名すれば応答する。グループでは補佐的な役割を担っている。 ②学習内容に関連する身近な生命現象について、例を挙げることができる。 ③グループ内の対話に参加するが、根拠は不十分である。	①授業への取り組みが不十分で、実験・観察に積極的に参加しない。 ②身近な生命現象に対しても興味・関心が見られない。 ③グループ内の対話への参加が不十分である。	提出物 課題 授業への取り組み